

平成25年度第1回千葉市文化芸術振興会議議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

1 日 時

平成25年6月24日（月） 14時～16時

2 開催場所

千葉中央コミュニティセンター8階 会議室「千鳥・海鷗」

3 出席者

（委員） 神野委員、早川委員、新井委員、関委員、北山委員、
廣崎委員、古川委員、藤田委員

（事務局） 市民局長、生活文化スポーツ部長、文化振興課長、文化振興課長補佐、
文化振興班主査、主任主事2名、主事1名

4 議 題

（1）千葉市文化芸術振興計画 進捗状況について
（平成24年度実施状況、平成25年度実施計画）

（2）千葉市文化芸術振興計画 重点項目について

（3）その他

5 議事の概要

（1）「千葉市文化芸術振興計画 進捗状況」について

（平成24年度実施状況、平成25年度実施計画）

千葉市文化芸術振興計画の平成24年度の実施状況及び25年度の実施計画について報告し、意見交換を行った。

（2）「千葉市文化芸術振興計画 重点項目」について

議題の趣旨を説明し、今後2年間における計画の重点項目設定の方向性や、次期計画策定に向けて、各委員の立場や経験に基づき意見交換を行った。

（3）その他

報告事項として、今後文化振興課が取り組んでいく事業について説明をした。

6 会議経過

【神野委員長】

それでは、次第に従いまして、議事を進行してまいります。よろしくお願いいたします。

議題1の「千葉市文化芸術振興計画 進捗状況について」ですが、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

< 資料1～4に基づき事務局から説明 >

【神野委員長】

今年度の振興会議が担うべき役割ですが、文化振興計画の最初の3年間が終わり、そして今年度は次の3年間の3年目にあたります。今回は、3年間続いたものの期間のまとめの年ということもありますが、来年度以降の2年間の重点施策も考えなくてはいけないということです。

ご意見やご質問等ございましたらお伺いしたいと思います。宜しくお願いいたします。

【早川副委員長】

事業費というのは、市の予算でみるのですか。それとも事業に係る総予算でみるのですか。

【事務局】

関係経費の全体を含んでおります。

【早川副委員長】

例えば、美術館の展示については美術館の予算が中心となっているというわけですね。

【事務局】

その通りです。

例えば「ちばYOSAKOI」や「大道芸フェスティバル」など、民間が実施している事業も計画には入っておりますのが、そちらは市の予算はほとんど含まれておらず、民間資金で実施しているということになります。

【廣崎委員】

12ページの「既存の施設活用の推進」ということで、今のところ休止ということになっておりますが、今後も予算上、難しいということでしょうか。

【事務局】

空き教室の利用については、どのように直していくかという財政的な面と、セキュリティの面における地域住民の方の理解があって、なかなか空き教室の利用は難しいという状況になっております。

ただし、空き教室ではなかなか課題が多いのですが、他に2つ方法がありますのでご説明させていた

だきます。

1つ目は学校の統廃合で、その資産と跡地をどのようにしようかというところでの活用の選択肢がまだ残っています。2つ目は市として、学校の特別教室いわゆる「音楽室」「図書室」といった教室を市民開放ということで1区1か所ということで進めております。現在の情報では、3か所ほど特別教室の開放が今年度から行われるということですので、各区1か所は音楽教室等が使える体制を近々にとっていきたいと考えております。

【神野委員長】

A評価で例えば、目標とした人数・参加者が大幅に上回ったものは非常に分かりやすいと思いますが、その他の部分で、この事業は質的な評価として成果が上がったというような、特徴のある評価が反映されているといった事業はありますか。

【事務局】

5ページの「美術品の収集」については、6年ぶりの購入ということでA評価となっております。基本的には、参加者数・入場者数・事業数等を目標としている事業が多いので、それらの数字が増加したということでA評価としているものが多いです。

【神野委員長】

定量的な評価は非常に重要だと思えますが、例えば、天候であるとか、不確定な要因でなかなか伸び悩んでいたが、内容は良かったということもあり得ると思えますので、その辺りをどのように評価するかを今後の検討にしていいただければと思います。

【事務局】

実は、天候によって参加者数が非常に少なくなりC評価となった事業もございます。定性評価と定量評価があり、どのように評価をするかは非常に難しいですが、今後の課題とさせていただきます。

【神野委員長】

美術館や博物館の連携事業が新規事業として掲載されていて、他の自治体等では既に行っているところもありますが、面的なつながりという点では、今までの文化関係事業になかった取り組みを始められたということは、非常に心強いという気がしております。

その他に、このような今まではなかった繋がりを生んでいくような計画を、準備されているといった情報をお持ちでしょうか。

【事務局】

先ほど、新規事業で申し上げた教育委員会の子どもたちの鑑賞事業ですが、邦楽なども含めた様々なジャンルの音楽が学校に出張していき、子どもたちを対象とした参加型事業になります。文部科学省の補助金が付いたということもありますが、内容も発展的に事業の量も増えていくと聞いております。

後ほど、報告事項で申し上げますが、若者を中心とする「新しい文化」にも目を向けようと思ってお

りまして、今年度より作業を始めていきたいと考えております。

【廣崎委員】

新規事業の「ちばミュージアムウォーク」に参加しましたが、会議自体にも私たち民間人や、商店街の方たちなど、文化振興財団の方々に多くの参加者を取りまとめていただいたので、ご苦労があったのではと思いますが、いかがでしたか。

【新井委員】

今回、「ちばミュージアムウォーク」は初めての試みでしたが、私たち財団・NPOの方・商店の方など、一つの団体ではなく皆さんで協力をして行う事業にトライし、皆さんにこれはどういう意味で行うのか、どういう目的で行うのかといった趣旨を共通認識していただくということに、担当を含め非常に苦労した面があります。

各々に考えて行動をしていただかないと、一体感が生まれてこないというところでは苦労した部分もありますが、我々も色々な方の意見や発想をお聞きすることができたという、とても良い機会であり、今後、財団としても違った発想を出していけるかなという点では、非常に貴重な体験の事業であったと感じております。

【早川副委員長】

「市民芸術祭」がB評価となっていますが、全体としてあまり変わりがないので、B評価ということだと思います。ただ、私が面白いなと思ったのは、音楽協会が音楽のあらゆる分野から参加を求めてコンテストを行ったのですが、尺八があったり、バイオリンやチェロがあったり、声楽もありました。どんなジャンルでも募集をして、発表会を行い、順位をつけたという非常に面白い企画がありました。

考えてみれば、尺八とバイオリンなどを並べてどれがいいかと順位をつけること自体が、ご専門の方からすればおかしいと思いますが、より多くの方に参加していただくといった点では、画期的な会だったと思います。

こういった一つ一つの新しい動きが出てきているということも、市で目を付けていただければありがたいと思っております。

【北山委員】

私はまちづくりを行っておりますので、3ページの「パラソルギャラリー」についてですが、おそらく評価については、出店組数ということで24年度目標が60組で、実際には59組ということで1組少なかったのがB評価ということなのかなと思いますが、逆に、こちらは出店組数以外にも、来るお客さんがどのくらい入ったのかでも評価されるべきかと思えます。評価については所管課が行うかと思いますが、評価の基準というのはどのようにお考えでしょうか。

【事務局】

ご指摘の通り、ただ単純に出店組数だけで評価を行うのもおかしいということで、参加者数なども考慮してということですが、おそらく所管がB評価をつけた理由というのは、当初考えていたものが概ね

目標通り達成できたということだと思います。それ以上の大きな評価すべきことがあればA評価になりますが、所管課はおそらくそういうことで評価内容をとらえB評価をつけたと思います。

【北山委員】

わかりました。

今回、B評価をつけた事業はたくさんありますが、こちらは次にA評価になるための課題があると思います。こういうものは表現していただくと我々も理解できると思います。

【事務局】

なかなか次に向けての課題を表現するというのは難しいかと思いますが、先ほど、神野委員長からも定性評価の課題をいただきましたので、併せて今後検討させていただきたいと思います。

【神野委員長】

今の話というのは常に新しいことをやるべきことと、継続することに価値があることを整理して考えていくことも可能かもしれないですね。次から次へと新しいことをやって疲弊するよりも、大事なことをずっと継続していくということへ重きを置くという活動もあると思いますので、その辺りは、事業ごとの性質、おそらく各所管課の課題というのもそれぞれ違うと思います。

あまり細かいところまで言っていくと評価自体かなり幅が広がって難しくなると思いますが、そういった点も視点に入れるといいと思います。

【藤田委員】

計画上の事業について、市の立場として主催や共催、後援があったりということで区別が入っておりますが、文化芸術関係というのは、非常に費用がかかって通常は赤字になってしまうということがあり、色々なところで寄附金をもらったり、民間企業に財政的な援助をいただいたりといったことを心掛けていかないと、良いものは出来ないと思います。その辺りの財政的な面での民間の協力状況や個人的な寄附金が見えてきませんが、そういう方向はいかがですか。

【事務局】

千葉市が財政危機になってから、ここ数年間の文化の予算はかなり減ってきているという現状でございます。その中で、我々も新しい試みに取り組んでいかななくてはならないと考えておりました、文化の基金に対する寄附についてホームページを通じてお願いをしたり、イベントの際に募金を集めたりといったやり方をとっております。それらの啓発・PRをしっかりやっていかななくてはならないと考えております。

また、民間企業に対してのご指摘についてですが、こちら来年度に向けて次回の会議の中ではある程度、方向性を示せるかと思いますが、企業の社会貢献活動ということで、例えば、アーティストの派遣や総合的な企画など、企業の求めている色々なご要望に対して、我々が文化振興財団の協力をいただきながら、企業のご要望に合う事業をパッケージで示して企業の社会参加を上手く使って、市民が文化芸術に触れあえる機会をできるだけ増やすような取り組みをしていきたいと、こちらは現在検討中です。

【早川副委員長】

京葉銀行プラザは命名権を市が売っていますよね。相当な金額になるかと思いますが、そういった格好で、企業は協力しておりますし、それから文化振興財団で行っているジャズのフェスティバル等も企業から協賛金を頂いております。そのように、一定のルールで行っている訳ではないのですが、主催者団体が色々声を掛けて協賛金を頂いていると思います。

それから、企業は企業なりのルールを決めて、こういうところから依頼が来たらAクラスの協力とか、こういうところから依頼が来たらBクラスの協力とか、それなりの判断基準を持って、色々な意味で協力はしているのではないかと思います。

【事務局】

今のお話は、正におっしゃるとおりでして、そういうところを今まで我々が一緒に協力をしていなかったのですが、民間企業が行っているものについても我々は、市民に対して、例えば、千葉銀行であれば、「『ひまわりコンサート』を行っていますので、是非とも観に行ってみてください。」といったような誘導ができるような行政の仕事を行っていかなくてはならないと考えております。

【藤田委員】

やはり、市内にある大手企業にご協力をいただければ規模も大きくなるかと思しますので、これからも行ったら良いと思います。

【神野委員長】

先ほど、事務局からもありましたが、企業にとってどのようなメリットがあるかということは、とても重要になっていくと思います。企業側にも色々ルールがあり、その橋渡しも行政が担える部分かという気がいたしますので、今後期待したいと思います。

【古川委員】

今年度と来年度の2年間、県立美術館が閉館している状態で、非常に困っている方が多いようです。こちらをチャンスと捉えると、同じ市内にある施設なので、県立美術館で毎年行っていた色々な美術展等を何らかの形で、市の施設で引き受けることができると、面白い展開も考えられるのではと思いますが、その辺りは何か考えていますか。

【事務局】

現在、県立美術館が耐震工事中で閉鎖しておりまして、その影響もありまして市美術館のギャラリーの利用が増えております。ただし、県立美術館は無料ですが、市美術館は有料でございまして、この辺りが問題なところもありますが。また、今、県が展示できないので県内を巡回するといったことを行っておりますが、私共でも県立美術館と何か連携を図ってできないかと考えていけるかなと思っております。今のところ、美術館の企画というのは、何年もかけて企画するものが多くて、来年やるというものもなかなか難しい面があるそうで、県が閉鎖をしているので一緒に何かをするというのは、直ちにできる状況ではないかとおもいますが、ご意見もいただきましたので可能かどうかこれから検討をしていき

いと思います。

【古川委員】

企画展などは、正直私も厳しいと思いますが、県立美術館の閉館中は、民間の団体の方が少なくとも2つか3つ、大体1週間程度、展示をしているのがやる場所がなくなっていますので、空いている学校などを使い始めるのにはいい機会かなと思います。そういったことを検討してみたらどうかと考えますが。

【事務局】

分かりました。美術館という場所でなく、市が持っている様々な資源を上手く使えないかというご意見ですね。承知いたしました。検討させていただきます。ありがとうございました。

【神野委員長】

県立美術館のような大きな展示スペースはなかなか無いので、特殊な状況とは言え、皆さん困っていたのではないかと思います。

それと、色々なところを使えるのではないかというお話でしたが、その方向で検討していくことは非常に重要だと思いますが、一方で、美術館という施設でなければ嫌だという方も多いと思います。そうすると、結局、市の美術館か県の美術館に集中していってしまうという状況は、傾向としてはあまり変わらないかなという気もします。しかし、一方でこういう展示スペースも面白いということで、表現の幅が広がっていく可能性もありますので、そういった方向での検討もしていただけると、とても面白いかと思います。

【関委員】

新しく色々行っている事業や、継続して行っている事業が計画の中にあると思いますが、事業ナンバーということで1、2、3、4、5となっていますが、これはどんな順番になっているのでしょうか。

【事務局】

行政の組織順になっておりますので、特にこういった順というのはありません。

【関委員】

例えば、新しいものだったり、継続しているものだったり、継続しているものから新しいものを作ろうとしているものだったりとかであるとか、もしくは、演劇であるとか美術であるとか、音楽であるとかジャンル順であったりとかに並べ替えれば、何か色々問題点も見えてくるのではないかと思います。

【事務局】

おっしゃること、よく分かります。例えば、何らかのカテゴリーでまとめるとか、演劇とか美術とか音楽とか、そうすると何か見えてくるかもしれないですね。確かに、おっしゃることはよく分かりますが、ただ例えば、「市民芸術祭」のような内容によっては、全てのものが入っておりますので、そういったものをどう分けるか、少し難しいとは思いますが、次回まとめる際に検討させていただきたいと思

います。

【神野委員長】

今の関委員の指摘のジャンル別というのも見やすいと思いますけれども、私の関心だと、例えば、市の関与度といいますか、100%市が出資して行っているものとか、関与が段々低くなって、もう後援しているだけというような傾斜になっていっていると見易いと思います。

【神野委員長】

「ちばYOSAKOI」に関してですが、市原に移ったことの原因というのは、市原市が特にYOSAKOIのサポートを厚くするといったような方針を打ち出したとか、そういったことでしょうか。

【事務局】

そこまで情報は掴んでいないのですが、ただ、市原では、かなり広い大きな会場が用意できると聞いております。その辺りが、千葉市の中心部で色々な規制も強いところがありますので、そういったところではないかなと想像しております。

それと、平成22年度までは確か短期的に2年間だったかと思うのですが、100万円ほど市が補助金を出していたという経緯がございます。それが、やはり財政状況が厳しくなってきた中でそれが出なくなったということが、一つの要素となっているかと思えます。

【早川副委員長】

YOSAKOIというのは、文化芸術なのでしょう。というのは、YOSAKOIが入るなら各町で行われている盆踊りとかこういったものを市全体として、組織化することも考えてみたらちょっと面白いのではないかと思いますけれども、意見ですからお答えはいたしません。

【神野委員長】

YOSAKOIがなんでこんなに流行っているのだらうと調べてみると、学校関係でYOSAKOIをやっているところがとても多いです。それで、色々辿っていくと、荒れた学校が一つにまとまっていくという時に、昔ながらのYOSAKOIではなくロックソーランみたいな感じで、強いリズムに乗ってやっていくというのが、非常に学校の建て直しに有効だったということがあり、それが全国に広まっていったそうです。

そういう背景があり、割と皆が参加しやすく乗りやすいというのがあるみたいですね。

【関委員】

岡山では、ほぼYOSAKOIと同じですが「うらじゃ祭り」というのがあって、「うら」とは「鬼」のことですが、やっている事は同じで、『桃太郎』の桃太郎じゃなくて、鬼の格好をしたり鬼のメイクをしたり角とかついたりいろんな格好をして皆で踊るというものです。

地域で岡山は鬼だらうということでやっているということがあるので、地域で無理やりそういう風に乗っていくのも面白いと思います。

【神野委員長】

この後、報告していただくサブカルとかのヒントになるかもしれません。

他はいかがでしょうか。

それでは、進捗状況に関しては、ご意見は以上ということで、次の議題2に移りたいと思います。

議題2「千葉市文化芸術振興計画 重点項目について」です。事務局からこの議題についての説明をお願いいたします。

【事務局】

< 資料5、6に基づき事務局から説明 >

【神野委員長】

過去の文化芸術振興計画に沿って行われてきた事業とそれの評価、それを踏まえて全体を再度見直した時に、現時点における総合的な評価をしていくということで、AからCの評価というものが資料5では示されております。その中で、重点目標の項目の候補として市の方で挙げている項目に「◎」が付けられていますが、その背景として、資料6の理念として『個性豊かな新しい千葉文化の創造』というものを目指していく時に、この『個性』『世界性』『市民主体』という3つによって構成されるだろうということだと思いますが、『市民主体』ということに力を入れていくべきだということです。

これは基本的に総合的な戦略ということが、最後の2年間では求められていくので、市民が中心となって主体的に文化芸術活動に取り組んでいくという状況をつくっていくのが、まとめにふさわしいのだろうということでもあるかと思えます。

この◎の部分を見ていきますと、既に高い評価を得ているが、今後継続して力を注いでいくべきであろうというものと、あるいは取り組みが始まったばかりでさらに発展させるべきであろうものと、まだ十分な取り組みがされていないので最後の2年間で積極的に取り組むべきであろうというようなものから拾われていると、私の方では理解しております。

さて、この市からの提案について皆さんから率直なご意見をお寄せいただければと思います。宜しくお願いいたします。

【事務局】

スケジュールについて追加で申し上げます。

今回は、私どもの方から提案をさせていただいて、今日ご議論いただき、第2回目の振興会議で重点項目を設定できればと思っております。ですので、今回と次回の2度ご審議をいただけるという形で考えておりますので、宜しくお願いいたします。

【神野委員長】

今日の議論の中で方向性が分かれば、次回具体的にしていこうということですね。

率直なご意見ということですので、宜しくお願いいたします。

【関委員】

重点項目と、そうではないものについて違いをお聞かせください。

【事務局】

基本的には、まず「市民主体」の事業かどうかという点を念頭に置いて設定しております。「市民主体」というのが、先ほど申し上げたような、できるだけ市民の方がたくさん参加できる事業か、市民が中心となってできる事業、そういった市民参加型を導き出せるような事業をまず選びまして、その後で、これまで6年間の事業の進捗状況を見て、もう充分であると判断したものは重点項目に入れていません。それから、今までかなり行っていますがこれからもっと必要なものについては選んでおります。もう一つ、重要なものですが我々行政の実情から言っておそらく、今後2年間では進められないだろうという項目については、重要だと思えますが、あえて今回重点項目には入れておりません。そのような視点から取捨選択をして重点項目（案）という形にまとめさせていただきました。

【神野委員長】

関委員からの質問には、例えば、予算的に増やしていく可能性があるかとか、あるいは今、既に行われているものをもう少し重点的に市民主体に意識したものに組み替えていくであるとか、その辺りの具体的なイメージということも聞きたかったのかなと思うのですが、いかがでしょうか。

【事務局】

非常に難しいところですが、私どもの希望とすれば、できるだけ予算を増やしてもっと事業数は増やしていきたいというところです。ただし、実情から申し上げれば、この予算というのは各所管課が財政当局と調整して確保することになっており、我々が計画をしてもなかなか難しい面があります。我々としては、今まで以上に少しでも事業が進んでいただければそれは、重点項目にしてそれなりの成果があると考えております。なので、予算が増えればもちろんいいですし、予算が増えなくても事業内容が一層充実していただければいいと、そうした事業を選んでいるということです。

【藤田委員】

資料5の方で、右下に平成20年度から平成25年度にかけての統計データが書いてありますが、52事業から今は68事業に増えているということですが、それなのに予算が約4億7千万円から約3億5千万円へ、ここ5年間で1億2千万円くらい減っています。けれど、事業は増えているということになりますと、どうしても広く浅くなってしまうのかなという感じがします。予算がある程度限られてきていますし、こういう財政が厳しい状況でありますので、事業を若干減らして予算の重点的な使い方が望ましいと思います。中には沢山良い事業もあると思いますが、あまり広く浅くしては、効果が上がらないような気がします。

【事務局】

おっしゃる通りだと思います。我々も数字を見ていただくと分かるように、平成20年度から平成25年度まで文化予算というのは毎年、目減りをしております。ただ、私どもが思うのは、これ以上はな

かなか下がらないのだろうなと思っております。そういったことも踏まえて、これからはなかなか財政的な余裕がない中で、どうやって進めていくかということになりますと、今、藤田委員がおっしゃられたように幅広く行うのではなくて、できるだけ絞った形で行った方がいいのかなということで、私どもの方も今回の重点項目は10項目ということは、今までの重点項目の数よりはかなり少ないとは思いますが、たくさん選ぶのではなくてある程度絞った形での提案をさせていただいております。

【神野委員長】

広く浅くということではなくて、重点的に予算をつけていくということ効果を上げるのではというご議論でしたけれども、例えば、この全体の千葉市の文化事業というのは、所管課が随分異なっていて、それを市の取り組みとしてここで見ておりますが、それを少し整理して、文化振興課が総合的にそれを推進するといったことは、検討される余地があるのでしょうか。

【事務局】

私どももこの4月から参りまして、この計画を見た時にあまりにも幅が広すぎるなと個人的には思いましたし、次の計画に向けては、もう少し絞り込んだ上で文化施策を我々がリードし、庁内の方向性を取っていくというところを役割としてやっていかななくてはならないと思っております。ですので、あまりにも幅広く拾いすぎてしまっていますが、ただ今回この計画は直せませんので、先ほど、藤田委員からご指摘がありましたように、財政当局との折衝を含めて各所管が対応しなくてはいけない部分と、我々がリードできない部分もありますので。ただ、文化振興課が主催で行っている事業については、予算が減らされている中で必ず拡充に向けて来年度以降取り組みたいと思っております。

【早川副委員長】

いつも反対のことを言ってしまうのですが、文化振興計画というのは何のためにあるのでしょうか。というのは、例えば、重点項目を絞ってその事業が成功すれば千葉市が文化都市として発展するのですかということで、あまり意図的に絞らなくていいのではないかと思います。

それで、もっと民間の力を使ってやっていこうとしている訳ですよ。例えば、市民芸術祭で書いてある予算1,400万円となっております、おそらく千葉市から出ている予算は約400万円だと思いますが、残りの約1,000万円というのは会員の会費で賄っているのです。したがって、予算との関係で事業を絞るのは構わないと思いますけれど、振興計画という観点からは意識的に削らなくても、必要だったら挙げておいても構わないというのが私の意見です。

【藤田委員】

資料6ですが、色々評価するにあたっての基本的な考え方が記載されていると思いますが、基本目標のところ3つ「個性」「世界性」「市民主体」をいうことで、今回は「市民主体」を重点的にやりましょうということで、こちらは分かるのですが、「個性」は良いとして、「世界性」というとちょっと飛んでしまっているのではないかと思います。千葉市から世界というと地球の裏側まで、全てを考えた文化を考えなくてはと思うと、一段階から十段階まで飛んでしまっているような気がします。私が思うのは、やはり千葉市というのは千葉県の中心としたいですし、そうあると思っているので、千葉県を

リードするような市の文化のあり方、あるいは日本の中に千葉市があるというようなことであって、「世界性」という言葉は少し飛んでしまっているように思いました。

【神野委員長】

この「世界性」というキーワードについて、特に強調する背景が何かありましたらお願いします。

【事務局】

こちらに記載されている基本目標の3点というのは、実は千葉市のマスタープランで書かれた目標で、このマスタープランは大風呂敷を広げた様なものでして、実は、計画期間というものを設定しておりません。なので、今後千葉市が目指すべき方向ということで、かなり最終的な到達点を描いたもののご理解いただければいいと思います。ですから次期計画においては、その段階で世界まで目指すのかというのは、まだ別問題だと思います。最終的には世界まで目指すにしても例えば、次期計画では、まだ千葉市の文化度がそこまで達成していないとすれば、まずは県内をリードするという点で留めるということも十分に考えられると思いますが、一応、マスタープラン上は「世界性」まで意識した文化振興を考えたいということです。

【神野委員長】

ローカルに考えたり行動をしたりしながら、でも実はそれがグローバル価値観とつながっているというのは、おそらく最も重要なことだと思います。

千葉大もそういう理念で大学を運営しておりますが、例えば、私の研究室で行っているもので、これは千葉市美術館と一緒に活動をしている活動で、「ちばアートネットワークプロジェクト」というものですが、非常に宣伝ベタなので千葉のローカルで地道にやっていますが、中身には私自身は自信を持っています。実はそこに海外の美術館の教育部門から一緒に連携しないかということ、言われております。

ローカルな課題にグローバルな視点で問題設定をして、しかも実際に実行していくということは実は、世界につながる一番近い道のような気がします。世界のステージに向かって行くというやり方が今までの文化芸術の世界性ということだったかもしれませんが。

そのように考えていくと、いきなり世界ではなくローカルなもののクオリティーをその地域の課題に沿って深めていくと、実はそれは世界性を持っているのだ、ということになっていくのではないかなという気がいたします。

千葉市も足元も磨いていくことが世界に一番近づいていくような風にとらえておりますので、先ほど大風呂敷という風におっしゃっていましたが、私は決して悪くないような気がいたします。けれども、ちゃんとそれは意識して、言葉だけで終わらないようにと思います。

他はいかがでしょうか。

【廣崎委員】

先ほどの大風呂敷の話になりますが、私たちはNPO法人ですが「落語国際大会」と名をうって今年、3回目を行うことになっています。それもやはり、世界に羽ばたくということだけではなくて、世界の

人からちょっと注目を集めたいという意味で、私たちの方では国際という言葉を使っています。そのような考え方もあるのではないかなと思いました。

【神野委員長】

この◎の付けられた部分に関してのご意見・ご感想ということでもいいかと思えますけれども、いかがでしょうか。

【早川副委員長】

何だか、大風呂敷みたいな話ばかりで恐縮ですけども、今度、成田方面で県が中心になって経済活性化を行うという記事を新聞で見ました。これから先を見通して、千葉市が千葉県の中でどういう役割を果たしていくのかということは、一つ市のご当局でご検討いただければと思います。

私も何十年千葉に住んでおりますが、人が来た時にどこに連れて行こうかということ、名所・旧跡はないし史跡も何もないです。その辺りを寒川村といった訳ですから、昔、千葉市は葦が生えた場所だったのです。だからそういうところを踏まえて、千葉市の文化都市化というところを考えないといけないと思います。広く千葉市全体を、どう文化的レベルを上げていくかということを常に視野に入れておく必要があるのではないかと、さっき言ったことのさらに前の話だにご理解をいただければと思います。

【神野委員長】

市の方で何かそういう、今の状況の中で千葉市というもののアイデンティティの再構築といった議論はされているのでしょうか。

【事務局】

まさしくそれは、私どもの長年の課題であります。結局千葉市というのは、大都市の中でも結構埋没しやすい状況がありまして、ただ何らかの千葉市のアイデンティティを見つけたいとずっと模索しているところです。

それで、今回市長が美術館の企画をご自身のブログで書いているのですが、今回は「仏像展」を行ったのですが、この仏像が千葉県内の仏像を集めさせていただいて千葉市で開催いたしました。これは、県内各地にある貴重な美術品といったら怒られるかもしれませんが、千葉市が集めて千葉市で紹介をさせていただき、非常に好評をいただいております。これは、千葉県内のものを千葉市がうまく文化の窓口として発信をして、色々な地域から人を集めるということができたという、成功事例の一つだと思います。専門家の間からも地方の公立美術館にある美術品をどのように紹介するかというのは、一つの課題であったものですから、今回はそれをうまく表現できた企画展なのではないかと思えます。こういったことを我々は、県都として県内の資産を上手く使いながらやっていきたいと。その一つとして、今回、新しい文化として「若者文化」とありますが、その辺りも最近千葉市に色んな若者が来て、アニメとかコスプレとかありますが色々なことをされています。これも一つ何か見つけられるものがないかということで進めていきたいと思っておりますが、それは常に頭に置きながら私ども、文化行政に携わっていききたいと思っております。

【神野委員長】

今、千葉市美術館の仏像の展覧会のことに触れていただきましたが、事務局から説明があったように、非常にいい企画展でした。文化施設が地域の文化のハブになっている好例だと思います。

仏像はもともと地域の信仰の対象であって、多くの人に拜まれて愛されてきたわけですが、それが一堂に会して、房総の美術品で見るという視点もありますし、房総ではこういうものが愛されてきたのだということを確認する機会でもあり、また各宗派の方々が一堂に会して房総の信仰について議論するような色んなイベントがうたれていたりもしました。美術館が見せているのは、美術だけではない訳です。

そういう文化的厚みをつくっていく主体として地域の文化施設があるという点では、千葉市美術館は非常に踏み込んだことを始めて、しかも中身が濃かったなという感想を私も持っております。そういう意味では、地域を大事にしながら、それが実は、全国に誇り得るものがあるという風に育て上げることは可能である気がします。

さて、他にはどうでしょうか。今日結論を出すという訳ではありませんので、皆さん持ち帰って次はぜひ、これを言いたいということがあれば、次回にまた持ち寄っていただければと思いますが、とりあえずこの方向での提案がされたということで、次回に次年度以降の重点項目を確定していくということで、一旦ここで議論を終えたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

【早川副委員長】

さっき言っていた「世界」というのは、表現をもう少し変えれば本当の意図しているところが理解できるのではないかと思います。これだけみると、誰が見てもちょっとね、となってしまうので。今まで議論していると内容をついているところが出てきているので、表現を少し変えるといいかと思います。

私も仏像展を見て大変感心したのですけれども、私が申し上げているのは展示物の中に確か、重要文化財が一つしかなかったかなと。ところが、例えば違う県の甲府などに行くと地方のお寺に国宝がある訳ですよ。そういう意味で、千葉県の中にはそういった伝統的なものがないのだからその中で、どうやっていくか考えることが先程から申し上げていることです。それは、何かというとなかなかいいアイデアが無いのですけれども、やっぱりそういうことを考えながら、奈良だとか京都だとかと同じ表現で文化だ芸術だと言ってみたって、千葉の場合はどうなのかなということなので何か違う道はないのかなと、このように思います。

【神野委員長】

ありがとうございます。その辺りは面白いところで、例えば伝統工芸が盛んな地域には国宝が多いと思われるかもしれませんが、必ずしもそうでない場合もあります。要は見せ方が上手いのだろうなと思います。

それで、千葉は何がと言った時に、ないからといって無理やりつくってもしょうがないので、素朴でもいいから魅力を感じ取ってもらえるような、それは多分、何か一つの施設を重点的に作るだけではそれは伝わらないので、多くの人たちが分かっている状態で、外からも人が来てそれに触れられるような、そういう環境を創っていくということになるのかなとおもいます。

では、議題2についてはここで引き取らせていただいて、次回継続してということにしたいと思いません。

それでは、議題3その他として、報告事項1の新しい文化の育て方について事務局から説明をお願いします。

【事務局】

< 資料7に基づき事務局から説明 >

【神野委員長】

まずは、実態調査ということですね。若者がどういう意識を持っていて、それがサブカルチャーとの関係というのはいかなるような形で持っているのか、というのを探る中で自治体として、若い人たちが愛好する文化というものをどのようにサポートしていくのかということを検討してく、その前段階の調査ということでしょうね。これについてご意見があれば伺いたいと思います。

【古川委員】

千葉市を舞台にしているアニメ「俺妹」だったのでしょうか。新聞社でも、ここ数年大分、記事で取り上げてもいいじゃないかと変わってきてはいます。しかしやりすぎると、なぜこのような記事を大きくするのかと指摘を受けます。

私たちの世代は、そのジレンマに悩んでいるところです。マスコミの取り上げ方というのが、正直言って分からないのです。ちゃんと取り上げていいのかどうかということが。

というのはなぜかという、我々の世代でも意見が割れていて、大概、大きく扱った場合は、もっと私より上の世代の上司から、なんでああいうのを大きくするのかとクレームがきますし、一方で、反響を見ていると、よく載せてくれたという若手の記者は居ます。逆に若手の記者でも微妙で、全く興味がない人間にとっては、ああいうオタク文化を新聞に載せるのはどうかという話も出てきます。

こういうことに積極的に取り組むことは私個人的には賛成なのですが、それに対する反応については微妙だということは報告しておきます。

【事務局】

今のご意見ですが、我々も取り組む時には、やはりそういう事を考えておりました。ただ、元々の新しい文化の範囲がどこまでなのかということもまだ分からない状態の中で、若者の意見を聞きながら、行政として何かを支援するというよりも、今までの枠組みの中に仲間として取り入れる、あるいは、温かく見守ってあげられる千葉市だよというような発信の仕方もありますし、色々ここに出ているコスプレとかアニメとかには、委員のご指摘の点は出てくるとは思いますが、それ以外にも例えばプロジェクションマッピングだとか色々なものがありますから使えるものは使っていこうということもありますし、もう少し幅広く検討していきたいなという考え方です。

【古川委員】

千葉市としてこういうことを一生懸命支援しているということであれば、新聞に限らずマスコミが大きく取り上げると思います。ただ、一部でやっていますよというイメージに捉えられてしまうと、先程私が言ったような話になるので、その辺をしっかりとした形で発信すれば、千葉市が面白いことをやっ

ているなということになると思います。腰が引けずにやっていただければ、我々は協力を惜しまないという感じなのかなという気がします。

【神野委員長】

やはり、流行に乗ってただ表層的に追っかけているという風に見られると、多分当事者からも馬鹿にされると思います。やはりそこには、千葉市がなぜこれをサポートするのか理論化することが非常に大事だと思います。

それで、彼らをサポートすることが、ただ趣味を肯定するということではなくて、それがどこに繋がっていくのかということの理念として示すということが、やはり求められていくのだと思います。そうするとそれを市が強く発信すれば、新聞も記事にしやすいということですね。そこで反論があったときに、こういう考えてやっているのだという主張をすることで、初めてそうした取り組みが意味のあるものとして成立するのだと思います。そのための、まずは現状の調査ということをするのだと思います。

私は大学で、20代の学生たちと接していますが、文化的な断絶というものはものすごいものがあります。例えば、私の教えている学生は美術科の学生が中心になりますが、以前は美術部でしたと言うので、それなら美術についてかなり関心があるのだと思うと、美術部ではただ漫画を描いていたと。油絵を描いていたという子はほとんど居ないです。下手をすると美術館に行ったことがないという子の方が多かったりします。

そのくらい現状というのは、ここにいる方の世代はかなり幅広いですが、我々とは風景がかなり変わってきていることは確かだと思います。その中で、行政としてその変化をどのように捉えていくかということは、まずはこの調査を踏まえてということになるかと思いますが、この調査がすごく大切な気がします。

【関委員】

趣味とかそういった話では、やはりないと思います。

先程、神野先生が変化とおっしゃいましたが、例えば、千葉市は変わらないとかそういうことを言う人は居るかもしれませんが、変わらないものなんておそらくなくて、千葉市というのは変わってはきてはいるのです。ですから、例えばコスプレもおそらく変化したい人がするのだと思いますし、どういう変化が行われているのか、どういう変化が行われて興味の対象が変わっていったのかという、変化の喜びといいますかそういったところが、私は大事だと思います。若い人はそういうのが好きでやっていると思います。そう変化してきているのを支援するなり、そのもの自体ではなくて、その変化におそらく喜びなり何かしらがあるのではないかと。支援する際にはそういう視点を持つこともいいのではないかなと思っています。

【神野委員長】

表に現れた具体的なもの、これをただイベント化して何かするとかそういうことではなくて、その背後にある若い人たちの意識の変化だとか、こういうことを自分は社会の中でやりたいのだということを押さえていくと、多分、発展した提案だとかサポートができるかもしれないということでしょうか。

他はいかがでしょうか。

【藤田委員】

今回の調査は新しい感じがしてとても良いのではないかと思います。重点的に東京情報大学にご協力をいただけるということで良いと思うのですが、情報大学は主体にやりますけれども、神野先生の所へ伺って千葉大学についてもヒアリングをするなど少し肉付けというか、幅広く調査いただければと思います。

【神野委員長】

こちらは、次回の会議の際にはある程度何かを示していただけるのでしょうか。

【事務局】

我々も今、どのような形になるのかやってみないと分からないという点がありまして、先ほど関委員がおっしゃられたように、我々もコスプレとかアニメとか直接支援するといったことは、考えておりません。なので、どういった形でこれらを育てられるのか、我々が文化として受け入れられるのか、その辺りを学生たちと、彼らがどういう考えを持って、どういう趣向を持ってという段階なのですけれども、それがある程度ご報告できる段階になりましたら、ご報告したいと思います。もちろん次の段階でそれなりの何か進めば、当然ご報告させていただきたいと思います。

【神野委員長】

それでは、期待してお待ちしたいと思います。

それでは次の報告事項2の文化事業（団体）への新たな財政支援について、事務局の方からご説明をお願いいたします。

【事務局】

< 資料8に基づき事務局から説明 >

【神野委員長】

市がこれまで行ってきた団体への財政支援ということを、透明性・公平性を高めるために公募へと移したいということを検討して、実際、そういった方向に動いていきたいということでした。こちらに関してご意見等がございましたら伺いたいと思います。

【早川副委員長】

公募ということにつきましては、全く異論はありませんが、こことはちょっと違う話になりますけれども、前の会議に出ている時に言ったのですが、例えば千葉市美術館の持っている収蔵品というのは大変量が多いわけですよね。あれをもっと有効に活用したらどうですか。その時、私が申し上げたのは、寄贈してくれた方に申し訳ないけれども、そんなに芸術性の高くないものであれば、どんどんオークションにかけてそのお金を文化振興に使ったらいいのではないかと聞いた記憶があるのですが。

例えば、市長室の絵はほとんど変わっていないですよ。それは、持っているものを貸与していくとか、企業に貸すとか色んな方法があると思うので、この文化芸術のあふれた街ですとか目指す中でそういうものも考えてもらえたらと思います。それから、残念でないのが、この道路を真っすぐ行くとポートタワーのところに佐藤忠良の像がありますよね。木が茂ってくるとどこにそんな像があるかという風ですが、ちゃんと見ればわかりますが。もったいないですよ。じゃあ、千葉市役所の前にそんな然るべき銅像があるかというのと、何もないのです。お金がかかるかもしれないけれど、移し替えるとかすれば、市民が来た時にいい彫刻があるね、とかいい絵があるねとか、そういうのもお金がかからない事業だと思うので、そういったものも次までにご検討の余地があったら考えていただきたいです。

【神野委員長】

美術館のコレクションの扱いはなかなか難しいですよ。でも、実はアメリカの美術館では結構柔軟だったりもします。例えば、ある美術館が持っているこの作品については、その美術館ではあまり生かせないけれども、別の美術館にあったらとても重要な作品になるという時に、コレクションの交換がされたりします。

日本の美術館というのは、一度入ったものは未来永劫、次世代に受け継いでいくという意識がものすごく強いのです。これは、もちろんいい側面でもありますが、要は増え続けるので収蔵庫は増築し続けなければならないということにもなります。それは現実的には難しいので、本当はもっと広く議論をしていい部分ではあるような気がしますが、なかなか美術館業界の中では、未来に受け継ぐということ的前提にして運営をしているので議論が難しい部分ですね。多分、急には変わらないとは思いますが。

【早川副委員長】

なるべく市民の目に触れるというか。あそこに並べるといったって、広さは限定されている訳だし、全く日の目を見ない作品がいっぱい入っていると思います。千葉市の美術館は収蔵量がものすごく多いです。

【神野委員長】

そこはなかなか難しいですよ。収蔵作品は美術作品としては、みんな同じという立場に立っているので、やはり温湿度の管理がされているところに展示をしたいと。

私は以前、他県の県立美術館におりましたが、その時に、知事室に絵を飾りたいという話がありました。学芸員からすれば、あそこは直射日光が入るし作品の保存上厳しいなとか、でも知事室はもちろん県の顔なので、いい作品を置きたいよねとか、色々意見が出てくるわけです。じゃあ2か月ごとに作品を変えましょうとか、色々な判断があり得ます。

有効利用という点では、非常に面白いと思いますけれどもそちらは、今後の検討の材料ということでしょうか。

【廣崎委員】

民間団体としまして、公募による募集で補助金をいただけるという制度は本当にうれしい限りです。

みんなお金がないまま自分が会費を出して会を運営して、その中で色々賄っているというのが現状ですので、ぜひこちらを充実させていただければと思っております。

【関委員】

具体的な姿のところは、「多くの市民が文化芸術に親しむ」という言葉がありますが、ちょっと日本語の解釈が、アーティスト側としてはありまして、「多くの市民が親しめる文化芸術」のようなそういう様な読み方というか、それこそ色々があつていいと思ってしまうのでコンビニエンスストアのようになってしまいがち言葉ではあるなと思います。それだと、単純に物理的なことを言っている訳ではないと思うのですが。市民と言った時に10人より100人の方が偉い、100人より1000人の方が偉いということでもないですよ。例えば、もしそれを言ってしまったら、ジャンルによって例えば、演劇だったら基本的に場所が限られているものですから、そんなに多くの人数は確実には見込めません。ですから、結構この言葉というのが、多くの市民が文化芸術に親しむというのが、私にしたらずごく難しいことなのかなという感じがしてしまう気がします。

【神野委員長】

受け取り方によっては、先ほどの事業数の話にもつながるかもしれないですが、ものすごく全体のハードルを下げて、広く浅くに読まれかねないというか、そういう方向に行きかねないという部分もあるのではないかとということです。

やはり、ものすごく先鋭的なクラシックで、これはいいものだということを、でも万人受けはしないかもしれないかもしれないけれども、今年度、こういう形でこういう構造でやりたいということも意味がない訳ではないので、そこも拾えるような評価の軸をしっかりと、ある程度幅を持たせながら多様な文化芸術というものを、千葉市民に接する機会を与えられるような視点というのもやはり重要になってくるだろうと思います。

少なくとも千葉市が固定的に団体に配っていた補助金・助成金というものを、全部いったん引き揚げて公募にしますというのは、とても大きな変化だと思います。そうすると、今まで補助金をもらっていた団体も、自らの襟を正して我々の活動の本質は何なのかということから、最後、提案内容というものを検討していくでしょうし、今までそこに入ることでできなかった新しい団体というのは、チャンスですから自らの活動をアピールするということになるでしょうし、これは少なくとも活性化することは間違いないですね。

その時に、先ほど事務局から提案がありましたが、ここにある種、評価の母体となっていくのであれば、その評価をする軸というのをどのように設けていくのかということも重要なことになっていくのかなと思います。

【事務局】

表現の仕方につきましては、色々我々も考えてみます。イメージ的には、広く浅くというものではなくて、様々な色々な方達がそれぞれのレベルに応じて文化芸術に親しんでいただきたいというイメージです。その辺りに齟齬がないような表現にしたいと思います。

それから、我々は単に公募すると言っておりますが、実は、既存の文化団体からの反発はかな

りあるのではないかと予測しております。ただ、多少アプローチをしているところもありまして、そこらはそんなに大きな反対はされていないですね。というのは、やはり今の文化団体の方たちも、ある程度、今の自分たちの活動の仕方に疑問を持っているというところがあって、何か活性化をしたいと考えている団体もかなり多いので、こういったことが、きっかけになると思ってくれている団体もあります。ただ、我々もやるからには、今までの制度を全部変える以上は、今までの分を削ってしまったら多分理解されないなので、できれば今まで以上に予算を確保して、予算規模を増やした上で、できたらいいなとは思っております。それがうまくいくかどうかですが、うまくできれば事業規模を増やした形で交付に踏みきりたいと思います。それは、これからの財政折衝になりますが、制度設計を上手くしてそういった形にできればと考えております。次回の審議会では、ある程度の形はお示しできるかと思っております。

【神野委員長】

他はございますか。

それでは、ご意見は以上ということで、皆様のご協力によって本日の議事はすべて終了いたしました。

ありがとうございました。

次回も宜しく願いいたします。